

犯罪や事故のない街づくり セーフティアップ運動 in 狭山を展開!!

狭山警察署管内では、都市化現象で地域の連帯感が希薄になったことなどによる各種犯罪や事故が、年々増加しています。そこで、狭山市長・狭山警察署長が自治会長とともに現地確認を行って、地域に根ざした、犯罪や事故のない街づくりへの取り組みとして、市民の皆さんと一体となって「セーフティアップ運動 in 狭山」を展開します。

セーフティアップ運動の取り組み方法

市民の皆さんが不安に感じている凶悪事件はもとより、身近なところで発生している空き巣、ひったくり、交通事故、自転車の盗難などの狭山警察署で取り扱った事件・事故を集計分析し、発生の多い地域を優先的に順次選定します。そして、総合的な安全施策を選定した地域を対象に、推進期間を決めて進めていきます。

推進期間・重点地域

- 第1期 12月1日～平成11年2月28日
…入間川1～4丁目
- 第2期 平成11年4月1日～6月30日
…狭山台1～4丁目
- 第3期 平成11年8月1日～10月31日
…富士見地区・隣接入間川地区

主な活動内容

- 第4期 平成11年12月1日～平成12年2月29日…検討中
- 防犯パトロールの実施
少年などのたまり場や人通りの少ない地域を中心に、関係機関・団体の連携を図り、防犯パトロールを強化します。
- 防犯灯の設置
自治会から設置要望のあった箇所はもとより、市と警察においても現地を直接調査し、必要性を確認して設置します。
- 道路診断、防犯診断の実施
交通事故多発箇所、少年などのたまり場について、関係機関・団体、市、警察が連携して現場診断などを実施し、改善します。
- 安全講習会などを開催
安全意識を高めるために、自治会などで防犯講習、交通安全講習など

安心して暮らせる街

今、「自分の生活が豊かであれば」「他人に煩わされたくない」という理由で近所づきあいが希薄になっています。何か事件や事故が起きたとき、隣人の危険を全く知らなかった、といったのはよく聞く話です。ゆとりのない現代社会だからこそ、もう少し地域に目を向け、関わり合って生活していくことが必要ではないでしょうか。

だれもがより安全に、安心して暮らせる街をつくるため、「セーフティアップ運動」を地域の皆さんとともに育てていきましょう。

問い合わせ

狭山警察署交通課 ☎9533・0110
10・狭山市役所交通防災課内線2223
223が市民生活課へ内線227

都市計画道路の早期開通に向けて建設省・大蔵省に要望



11月16日(月)町田市市長は大野衆議院議員の紹介で建設省を訪れ、当市の南北地域を連絡する主要幹線道路として整備を推進している都市計画道路柏原新狭山線について、早期開通に向けての支援措置を強く要望しました。

また、同日市長は、圏央道狭山・日高インターチェンジにアクセスする利便性の向上や広域的な南北交通における幹線道路として重要性の高い、都市計画道路東京狭山線の早期整備のため、6市2町で構成する東京狭山線整備促進期成同盟会を代表し、大蔵省に強力な支援を要望しました。

「友好都市厚木サミット」に参加 環境対策などで意見を交換



10月25日(日)、神奈川県厚木市の友好都市で構成するサミットが開催され、アメリカ合衆国、中華人民共和国、日本から計5市が参加しました。会議では、現在地球規模で課題となっている環境問題を主な議題として、各市の状況などが報告されました。町田市市長は、リサイクル宣言都市として2年めを迎える狭山市の環境への取り組みや地球温暖化防止への対策など、自分たちの身近なところからの解決が大切」と事例を交えて報告し、各市の参加者と意見を交わしました。

会議の最後、地球温暖化防止や21世紀を担う子どもたちへの環境教育などに積極的に取り組むことを合意するサミット宣言が採択されました。

覚せい剤等の薬物乱用防止を考える シンポジウムを開催!

狭山市コミュニティ推進協議会では11月7日(土)市役所6階で、薬物乱用を防ぐ地域環境づくりをテーマに、覚せい剤等薬物乱用防止を考えるシンポジウムを開催しました。当日は、100名を超える参加者のもと、青少年の薬物乱用防止活動に積極的に取り組んでいる横浜市戸塚高校定時制教諭の水谷 修先生による、若者たちとともに歩んで…：少年非行と薬物汚染の実態」と題した基調講演や、市内各中学校の生徒をパネラーとしてパネルディスカッションを行いました。

参加した生徒からは、薬物やたばこは他人のことではないと感じた。学

校生活の中でもみんなで深く考えた。薬物は自分以外の人も巻き込んでしまう。周りの人のことも考えてほしいと思う。など意見が出され、水谷先生からは、正しいことは正しいと言える強さを持つてほしい。とアドバイスがありました。

また、第2部として協議会加入団体による公開音楽放送劇を行うなど、活発なシンポジウムとなりました。

